

新緑の山でマンサクのみが枯れる現象について

富 永 弘

09年の冬は、3年連続の小雪であった。一昨年の「104年ぶりの小雪」と言われた年よりも雪が少なかった印象がある。自分では、記録の残る中では最も雪の少なかった年だと思っている。

春の山菜シーズンが一段落した5月半ば、万緑の小出の山に、モザイク状に多くの枯れ枝のあることに気づいた。(写真1)「また今年も、毛虫が大発生したようだ」と思ったのだが、さにあらず。近よれば毛虫などは一匹も見えず、すべてマルバマンサクの枯葉であった。不思議なことに、マルバマンサク以外の木々は、全く正常に葉を展開していた。何故、このような現象が起こるのか？思い当たる原因がない。両親に尋ねると「08年も同じだった」とのことだが、私に昨年のこの現象の印象はない。以前にも、暑く日照りの続いた夏や蛾の大量発生したときなど、全山が枯葉色になったことがあった。しかし、今年(や昨年)のように、マルバマンサクのみが枯れる現象は初めてである。観察を続けると、枯れた葉を付ける枝は枯死することなく、新たな葉を展開しているように見える。

「小出地域に限った現象なのか？」とも考えたが、胎内市(胎内溪谷)、魚沼市入広瀬(黒又川)(写真2・3)、福島県只見町(六十里越)、同金山町(本名御神楽岳)でも見られ、広範に生じた現象と思われた。全く原因の推測ができないのであるが、多くの観察結果を集め、経年的な観察を続けることにより、新たな知見が得られるものと考え、ここに報告する。



写真1 小出干溝 165m から (2009. 5.31)

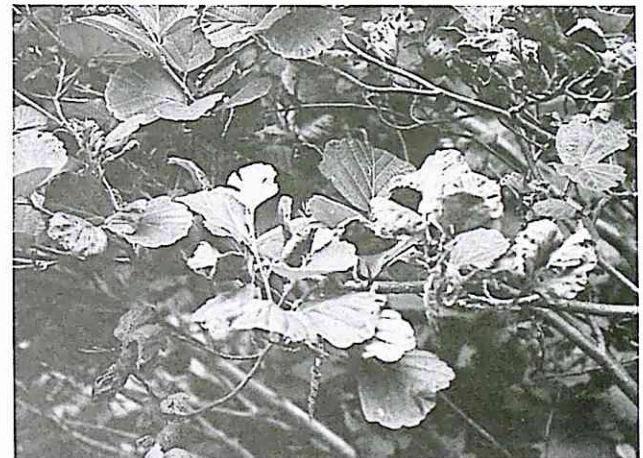


写真2 入広瀬(六十里越) 680m (2009. 6. 6)



写真3 入広瀬(六十里越) 680m (2009. 6. 6)

マルバマンサクの葉の枯死

本年県内各地でもマルバマンサクの葉が枯れたようです。燕市(分水) 国上山 150m でも葉が枯れているのを見かけています。他の地方でも同じような被害を見聞しているようでしたら御連絡いただければ幸いです。